

---

# 三人のHawk

チヨボロン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

三人のHawk

### 【Z-コード】

Z5009BA

### 【作者名】

チヨボロン

### 【あらすじ】

俺はなんでも屋をやっている高校生21歳だ（笑）高校生ライフサイコー！つと思いつながら高校最後の修学旅行で俺は事故に合つ、俺は死んだ・・・つと思いつきや俺は森の中で倒れていた！そして物語は動き出す！！

## プロローグ（前書き）

この小説は受験生であるにもかわらず暇な中学生が書いたものです  
言葉がなってないかもしません  
見てくれば幸いです  
そして世界を救うのはなんでも屋！？を改良したバージョンです  
ではどうぞ「三人のHawk」

## プロローグ

? 「ダウトー！」

親友が出した7の次のカードで俺は叫んだ！

俺は赤城良  
あかぎりよ

高校3年生なのに18歳と年齢をだまして高校生をやつている21歳だ

出身地は京都、なんでも屋をやつている男だ！

なんでも屋つて何つてか？

ひとつは銀  
に憧れたからだ

仕事は簡単、銀と一緒だ。w

これは秘密で独自でやつている、学校にバレないようになに・・・  
最近の大きな仕事は最近勢力を伸ばしているヤクザの組織を潰したことかな

1万人位軽いって（笑）

なぜつて？

簡単だよ俺の一家が我流の剣術（二刀流赤木流）をやつていて  
それで小学生からありえないくらいの修行をしたからだ  
どんな修行つて？

想像にお任せします

そして俺は「自由の赤い翼」と呼ばれている

今日は修学旅行で、東京に行く  
と言つても東京について、バスにいる  
いいだろ？（——）——ヤリ

俺は高校生ライフを楽しんでいる

今俺はバスのなかで親友2人とダウトをやっている  
これは盛り上がる

親友B「残念、この30枚全部君のものね」

そういうて俺にみせたカードを見せた

8だつた・・・

こいつ（親友B）は俺の親友、相澤直人  
あいざわなおひと

直人は俺と一緒になんでも屋をやつていて俺のサポートをしてくれる  
一様柔道をやつていて多分持たれたら誰でも負けるくらい強い  
歳は俺と一緒に「投げる軍師」と呼ばれている

はつきり言つてカッコ悪いので多くの人は「軍師」とよんでいる  
例にヤクザの制圧で人数、地図、脱出経路などなどと役に立つて  
こいつと話すようになった理由は依頼で助けたら入つてくれた

良「30枚だと・・・嘘だろ？」

30枚つて結構な量だぞ

トランプ半数越してるし・・・

直人「ほんとだよ（――）ニヤリ」

良「クソが！――！」

親友A「お前つていつも数が溜まつたあと外すよな」

こいつ（親友A）は俺の親友、大原雅之

おおはらまさゆき

なんでも屋を一緒にしている

雅之は昔、海外で親と戦争的なサバイバルな生活をしていたため自衛隊の心得をもつていて、銃や爆弾使っている

例に、俺が前線で戦っているとき、援護射撃をしてくれたり（もちろん死んでいません）

ヤクザの組織の建物を破壊してくれたりする

こいつは「圈外スナイパー」とか「ボムキラー」などとカッコイ名前が多い

こいつも直人と一緒に依頼で助けたら仲間になつてくれた

雅之「まあ・・・どんまい、直人ナイス（ヒソヒソ）（ヒソヒソ）bグッ！」

良「なに直人に（ヒソヒソ）bグッ！」つてしてんだよーてめは鬼か！」

雅之「鬼だが？」

良「くそおおおお！」

くそ！30枚はきつい俺あと5枚くらいだったのに35枚にちゃつたテヘペロ

直人・雅之「キモイよ」

良「俺なんか言つた！」

直人「あれ？違うかつた？」

雅之「まじで、俺は違つてはないんだと思つたんだけど……」

良「言つてねーよー」

直人・雅之「違つ違つあつちに逝つたんだよ」

良「感じ違つ！てか、あつちなんだよあつちつて」

そういうと二人は右手の甲を左のほっぺに持つて行つて乙女のポーズをとつた

良「逝かねーよー！」

直人・雅之「なんだ・・・残念・・・」

良「あんたらは、グルなんか？てかグルだよな？」

直人・雅之「違つ（な）よー！」

良「おんなじこと言つておんなじタイミングで言われても説得力ねーわ」

はああ・・

何回ツツコミいたかわからねえや・・・

良「直ラッショ、雅ラッショ、僕もう疲れたよ・・・」

直人・雅之「さよなら (\* ^ー。)ノバイバイ」

良「感動の場面だろ！何勝手にさよならとかこいつてんのー。」

直人「だつてパラツユ一匹もいないし」

良「まあそうだけど・・・」

雅之「だいたい、疲れたなら寝てろって」

良「そういう意味で言つたのかよ・・・」

ピンポンパーンポン

アナウンス「もうさうそろで付きますので荷物を運べるよう人に準備してくださいね~」

あ、終わつたもうちよつと聞きたかったな  
女の人の声好きなんだ・・・  
てか声フュチなんだ（笑）

直人・雅之「つと思つている良がいた・・・」

良「心を読むな！」

雅之「いや声にでたぞ」

マジで？

直人・雅之「うふマジマジマジ

良「今絶対言つてないだろ！なんで分かんだよー。」

直人「わかりやすいからに決まってるでしょ！」

良「逆ギレかよ！」

そういうなんの意味もない会話が続いた  
が、

ドガチャン！・・・バツシャン！

と音を鳴らした

そう、トラックが俺たちが乗っているバスに右から突っ込んできた  
しかも運が悪く俺たちは橋の十字路（左に行く道がない）に居た  
ぶつかつたあと橋から落ちて海に放り出されたのだ・・・

そして俺は死んだのか・・・

## プロローグ（後書き）

読んでもらってありがとうございます

いきなりですがアンケートをとります（笑）

アンケートの内容はなんでも屋をやるかどうかといつことです

1、なんでも屋をやって、管理局からの依頼でリリなのに乱入

2、なんでも屋をやって、自由に3人で暮らす話にしてリリなのに  
はあまりかかわらない

3、なんでも屋をやらないで、ゆりかごが出た時危ないと思つて乱入

4、なんでも屋をやらないで、ヴィヴィオを見つけて乱入

5、なんでも屋をやらないで、次元漂流者で保護されて乱入

## 登場人物（前書き）

こんかいは主人公の3人を紹介します

## 登場人物

名前	赤城良
性別	男
年齢	21歳
身長	185cmくらい
体重	72kgくらい
顔	戦国バサラの前田慶次みたいなかんじ
声	森田成一
武器	右手 紅刀
左手	炎月刀
身体能力 (100max)	体80
力	80
守	40
速	90
回	90
知	50

魔導士ランク 空SS

能力 魔法変換「炎」

魔力を炎に変換することができる

炎の翼

背中から大きな二つの火の翼が生える

剣術の心得

相手との間合いや気配を感じることができ

好きな

身體能力 (100m max)	守 80	力 60
武器	声	顔
サブ	小西克幸	ガンダムのカトルの髪の色を黒っぽくしたもの
メイン	メイン	素手
サブ	なし	
時間	時間	時間
嫌いな	食べ物	暇な時間、待っているとき
時間	すっぱいもの	
時間	甘いもの	

### 称号【自由の赤い翼】

速60  
知90

魔導士ランク 総A+

能力 鷹の目

100M範囲を田で見えるものならすべて見ることができる

裸眼記憶

見たものならすべてを覚えることが可能

柔道の心得

相手との間合いや気配がわかる

好きな

食べ物 和風料理

時間 仕事をしているとき

嫌いな

食べ物 なし

時間 仕事がないとき

称号【軍師】

名前 大原雅之  
おおはらまさゆき

年齢 21歳  
性別 男  
身長 180cmくらい  
体重 80kgくらい  
顔 戦場のヴァルキュリアのフォルティオ・ランツィアートみたい  
な感じ

声 子安武人

武器 メイン スナイパー、爆弾  
サブ ハンドガン

身体能力 (100m max) 体90

回50 力70  
速40 守60

魔導士ランク 魔AA+

能力 スナイパー

スナイパーの圈外を撃つことが可能である

野生本能

風速や相手との距離、気配を体でわかる

好きな

食べ物 洋風料理

時間 武器を触っているとき

嫌いな

食べ物 なし

時間 何もしないとき

称号【圈外スナイパー】

## 第2章 良ストーリー（前書き）

良が直人と雅之に会つまでのストーリーである

## 第2章 良ストーリー

良「うん・・・」

あれ？

俺死んだんじゃなかつた・・・？  
確かバスの事故で海に落とされて・・・  
そういう考えてる暇なく俺は田をあけると木がいつぱいだつた

良「お～周りは木、木、木、青、ん？青！」

なんと後ろに青いカプセルみたいな感じのがいた

良「なにこれ？」

近づいて触るうとした時だつた

ピコン！

良「危！」

なんかオレンジの目みたいなものからこいつ・・・

そうー・レーザービームだー！田からビームー！的な奴が出てきた・・・

ピコンピコンピコン！

良「危なー・ちよ まじであぶいからー！でかんんで増えてんのー・武器  
ー・武器ないのー！」

よけながら武器を探していくと

良「ひやーーーあ」

なんと俺の修学旅行に持つていていたカバンを発見!  
そして俺はそのカバンをとつて俺の武器

良「あつたーよかつたー紅と炎月があつてー」

【紅刀】

刀の刃の部分だけ紅色になつていてる刀だ  
切れ味は抜群だ

【炎月刀】

真つ赤ないろの刀

それを手にとつて

良「行くぞー今から逆転劇を見せてやるよー!」

俺は2本の刀を構えた

良「はああああーーー!」

グシャグシャ!

良「そーーー!」

ザクッ!

良「まあ…」

ブショウツ！

あつとこいつ間に止付けた  
てかレーザービーム撃つといでこの弱さはないだろ・・・  
今氣づいたけどオイルみたいな匂いがする  
多分青い奴はロボットだつたんだろう

良「はあ終わつた終わつた、それで・・・」

今氣づいたこいつだ?  
どうじよづか・・・

? 「や二のうと止まつてへださー」

良「へ?」

いきなりのことで油断をしていた  
声のしたほうがわからず俺は周りを見たが誰もいなかつた

良「空耳だな」

そうこつて俺は歩いひつとしたときだつた

ビシ一

あれ?動けないぞ・・・

良「ん?」

てか何か光ってるブレスレット見たいのに捕まってるー

? 「おとなしくしてくださーーー！」

良「ん？」

飛んでるーすげえー何回目だらう見た人が飛んでるとこ見たの  
そういうや最近直人が投げ飛ばしてたな・・・  
までまでそんなこと考へてている場合ではない  
そういうやなんでだ？

俺なんか悪いことしたか？

怪しいのはそっちだろ？なんかコスプレ少女が飛んでるし・・・  
確かに青いレーザービームを出すロボットを壊してしまったが・・・

? 「管理局のものですかおとなしくして付いてきてくださーーー！」

良「管理局？なんだそれ？あーわかったこの青いロボット管理して  
んだな、よしわかった」

そう言つて俺は

良「ふんー！」

ブチッ！

光るブレスレットを無理やり外した

? 「え・・・バインドが・・・」

良「？」

なんで驚いてんの？結構簡単に壊れたんだが・・・  
その前に

良「一回でつたーい！」

走る！俺は全力で！捕まつてたまるか！だつてあのロボットの仲間  
だろ？

絶対危ないし、俺怪しくないもん  
だつて怪しいじやん空飛ぶコスプレ少女だぞ？  
明らかにあつちの方が怪しいじやん

？「まつてください！」

そういうつて俺に光ボールが・・・  
つてなんじやこじや！俺に向かつて飛んできただぞ！

良「そりや！」

ブン！

良「またつまらぬものを切つた・・・」

ボールを切つたがあまり手応えがなかつた

？「嘘！」

何が嘘なの？もしかして俺が切つたときにあのセリフを言つたから  
か？

そんなこと考へてゐる暇はない！

走れメス！走るんだ！！

そう言いながら俺は全力で2時間くらい森で少女からのなんかよくわからない攻撃からにげ続け  
やつと逃げ切ったあと、街に到着

良一 疲れた・・・てかなんだよあれ、めつちや危ないじせん」「

そういうながら俺は街をさまよつた  
俺は他人にここはどこですかといふと

住民A 「あなた頭大丈夫ですか？」

廿

住民B 「いい病院しつてますよ、そこを右に曲がって・・・」

とか

「おじぎせんどうかうたの？」

とか、なんかかわいそうな田で見られました・・・

良一 手じで「リリギ」だよ！ なんていう無理分一だよ！」「

と想つてゐると  
とあるゲームの「」とをおもいだした

良「そうだ！図書館へいりつ！」

と走つて図書館を探し見つけたのだが・・・

良「なんだよ！なんて読むんだよこれー！」

管理人A「静かにしてくださいー！」

良「すみません・・・」

あ～もうなにがなんだかわからんので  
とりあえず図書館の管理人に事情を話翻訳をしてもらひながら  
こここの言葉をマスターした  
マスターするのに1週間管理人にお世話になった

良「ここのなんて国なの？」

管理人A「ここのは//ツドチルダつて言つんだよ」

良「へ～そらなんだ・・・」

?「あれ？なんでこんなとこひどく良がいるんだ？」

良「へ？」

そう言つて俺は声のした方をみると

直人「なんで君が図書館にいるんだ？」

雅之「久しぶりだな！つて一週間しかたつてないんだけどね」

そこにいたのは一週間前に別れた親友たちだった

## 第2章 良ストーリー（後書き）

見てくてありがとうございます  
次の話は直人と雅之のストーリーです

### 第3章 直人&雅之のストーリー（前書き）

直人と雅之のストーリーである

### 第3章 直人＆雅之ストーリー

直人「なんでお前が図書館にいるんだ？」

雅之「久しぶりだな！って一週間しかたつてないんだけどね」

そこにいたのは一週間前に別れた親友たちだった

良「久しぶり」

直人「ああ、一週間ぶりだね、そういうやなんで君がここにいるんだい？」

良「実はな、森に遭難している時に空飛ぶ少女に襲われ逃げてing  
とこの街に付いて……」

と俺は一週間あつたこと全てを話した

雅之「お前の方は大変だつたんだな……」

直人「僕たちはね……」

（一週間前）

雅之「知らない空だ……ってあれ？天井はどうしたんだ？」

上を見ると空だけだつた

下を見ると「コンクリートと修学旅行の荷物一人分と

直人「すゞすゞ」

寝ている直人がいた

雅之「起きろ！」

そして俺は直人を起こした

直人「うん・・・あと30分・・・」

雅之「起きろ！」

ペシペシ

顔を叩いてみた

直人「やめてよ」あと29分だけ・・・」

雅之「なんで1分しか減つてないんだよ・・・」

クソお・・・

起きないこうなつたら！

雅之「起きろ！」

蹴つた・・・

直人「うわ！なに！」

雅之「はあ・・・やつと起きた・・・」

直人「え！僕なんか悪いことした？」

雅之「してね～よ、急だが良がどこにいるかわかるか？そして、ここどこかわかるか？」

いきなりの質問で直人もびっくりしながら考えていた

そして自分のカバンを見つけてパソコンを出して調べ出したが・・・

直人「ダメだね、インターネットも通じないし調べようもない、僕は良がどこにいるかなんて知らないよ、それから、ここがどこだかわからないでも今いるところは多分何かのビルの屋上とかだと思つ

そう言った  
俺は考えた

雅之「う～ん・・・どうしようか」

直人「とりあえず荷物を持つてこのビルからでようか」

そういうて重い荷物を持って屋上のドアを開けて俺たちはビルから出た

直人「うわ～人がいっぱい・・・」

雅之「ほんとだな～」

外に出たら人でいっぱいだった

はじめは東京かどつかだと思つたが・・・

雅之「電気自動車しか走つてないぞ！」

直人「なんてエコな世界なんだ・・・」

走つてゐる車すべてが電気自動車だつたから東京じゃないことがわかつた

俺たちがいた世界はガソリンと電気の車が走つてゐるがその割合は8：2ぐらいただ

それにくらべてこの世界は0：10圧倒的だつた

直人「とりあえずほかの人に聞いてみよつか」

雅之「そうだな」

そう言つて俺たちは一人はほかの人に聞いてみた  
俺はあまり他人の人と話すのが好きではないので直人に任せた

直人「あの～すみません、」この世界の文字つてなんていう文字なんですか？」

街の人A「こここの文字はこの世界の名前と一緒にミッドチルダのミッド語が使われてゐるのよ」

直人「ありがとうございます」

直人「直人」

雅之「なんかわかつたか？」

直人「うん、ここはミッドチルダって言つてミッド語が使われているんだけど僕はミッド語つていうのがよくわからなくて・・・」

雅之「そうか、ありがとな」

ミッド語か・・・

そんなことより俺たちは住むことがないことに気づいた

雅之「そうだ！誰かに泊めてもらおうー！」

直人「待つてよー！絶対誰も泊めてくれないよー！」

雅之「そうか、ならホテルにしよう、大丈夫だ、俺がなんとかしてやる！」

そういうて俺は悪どい笑顔で答えた

直人「なんか不安なんだけど・・・（ボソ）」

雅之「なんか言つたか？」

直人「いや別に何も言つてないよー！」

雅之「そとかならいいや」

そういうて雅之はあるものをカバンから出した  
それは金！

直人「なんで金を持つてるんですか！しかも一千九百九十九あるよ。」

雅之「金があればなんでもできるとサバイバルで学んだ」

そういうやこの人サバイバル生活してたんだったね

雅之「そういうや最近の金つて確か一千九百九十九で九百九十九で売れるんだよね。」

そういうて宝石屋らしきところに一人でいった  
そして10分くらいしてから

雅之「お~い5,000,000なんちやら貰つたぞ。」

直人「これならホテルに泊まれるね」

雅之「せつかくなんだこんなに金があるし、ホテルに泊まろう。」

直人「そうだね！」

といつてホテルに泊まつて俺たちは一週間この世界のことを聞いていた

そして図書館が見つかったので俺たちはそこに行つて言葉を調べようとした

俺たちは図書館にはいつて中に入ると

雅之「あれ？ なんでこんなところに良がいるんだ？」

良が居た・・・

良「へ？」

そう言つて俺は方をみた

直人「なんで君が図書館にいるんだ？」

雅之「久しぶりだな！つて一週間しかたつてないんだけどね」

俺たちは親友と再開した

## 第4章 ニッヂカルタでなんでも屋ー（前書き）

アンケートの結果で

1、なんでも屋をやって、管理局からの依頼でりりなのに乱入

に決定いたしました

## 第4章 ミヅドチルダでなんでも屋ー

俺たちは図書館にはいって中に入ると

雅之「あれ？ なんでこんなところに良がいるんだ？」

良が居た・・・

良「へ？」

そつ言つて俺は方をみた

直人「なんで君が図書館にいるんだ？」

雅之「久しぶりだな！ って一週間しかたつてないんだけどね」

俺たちは親友と再開した

（現在）

直人「という感じに一週間過ぎしてました」「クソ！ なんで俺の時と直人との対応が違うんだ！」ってどうしました？」

良「俺がほかの人に聞いたら「あなた頭大丈夫ですか？」とか住いい病院しつてますよ、そこを右に曲がって・・・とか「おじちゃんどうつかうつたの？」とかなんかかわいそうな目で見られましたのに！」

良は悔しそうに机に頭をつけて机をグーで叩いていた

雅之「当たり前だ、お前どうせ『いいませじ』ですか?」って言った  
んだろう?」

良「なんでわかつたんだ?」

雅之「わかりやすいし、何よりバカだから」

良「どうせバカですよ・・・」

良は図書館の橋で二角座いじけてりした

雅之「で、どうすんだ?三人集まつても何も変わらないぞ・・・」

良「何を言つか!」

直人「復活早!」

良「やつぱり三人あつまつたらあれをするしかないだろ?」

そう言つて良は一カツとして言った

良「なんでも屋をするしかないだろ!」

雅之「やつぱり三人あつまつたらあれをするしかないだろ?」

直人「そうだね、僕も賛成だよ」

良「金は雅之が持つてゐるしあえずマンション借りてやるか」

そう言つて良は図書館から出た

雅之「俺の金が・・・。」（涙）

良が出て行つたあと雅之は泣いていた

直人「良は自由人だからしょうがない我慢しよ」

雅之「そうだな・・・しようがない・・・しようがないんだ・・・」

雅之は直人と一緒に図書館をでた

管理人A「あの・・・私は・・・」

管理人は急なことでおどおどしていた

～3日間後～

良「なんでも屋開店！」

直人・雅之「・・・いえ、い・・・」

良「なんだなんだ？ テンション低いなーもつと「いええええいー、みたいな感じでやれよ」

直人「いや無理だよ・・・良のせいだよ3日間僕たちに手続きさせたりいろいろ準備をさせたりしたの良じやん・・・」

雅之「疲れた・・・なんだよ俺なんかずっと荷物もつたり運んだりさせてたのにお前は！」

直人と雅之はパシリ活動をさせられぐつたりしていた

良「何を言つ！俺はずつと歩いてこの街を探索して足が痛かったんだぞ！」

直人・雅之「知ら（ないよ！）ねーよー！」

良「まあそれは置いておいて」

直人・雅之「置いてお（かないでよーー）くなよー！」

良「なんでも屋を開店したが仕事があるまで自由だ！」

雅之・直人「よし寝（よづ）るー」「すみませーん」〇＼＼

二人が寝ようとしたとき客がきた

良「どうしたんだ？」

？「なんでも屋つていうのが出来たって聞いたんで依頼にきました」

良「名前は？」

アリス「私の名前はアリス・カリスタです、アリストで読んでください」

良「俺は赤城良だ、良つて読んでくれあつちの二人は」

二人に自己紹介をしてもらおうと思い一人の方をむいた

直人「僕の名前は相澤直人です直人ってよんでもね」

雅之「俺の名前は大原雅之、雅之って読んでくれたらいい」

二人の自己紹介が終わつたあと依頼を聞いた

依頼はオレオレ詐欺にあつたアリスのおばあちゃんを助けて欲しい

とのこと

いきなりハードだな・・・

良「おっしゃるかー直人そのばあちゃんのことや周りのこと詐欺のこと調べてくれ」

直人「もうやつてるよー」

そういうつてすぐに調べてくれた

詐欺のグループはヤクザのグループで詐欺などで勢力を伸ばしてい

るらしい

一様アリスを家に返して俺たちは実行の準備をしていく

良「俺たちつて運が悪いな」

そう言いながら刀を降つて言った

雅之「そつだな最近やつたことがあることをまたやるんだから

雅之はスナイパーと爆弾をいじつていた

直人「よし、作戦は僕がヤクザグループの建物にハッキングして停電を起こす、そのあと良が襲撃をして良が騒ぎをお越している間、

雅之はそれに注意しながら外から援護射撃、僕は指揮する、目標はヤクザグループを壊滅状態と、詐欺をした人間すべてにされた側の人間に賠償金を払う、これでいい?「

雅之「相変わらず顔に似合わぬことするな・・・」

直人「そうかな?」

良「よし実行は夜だ!それまで寝よう!」

夜になるまで三人で寝た

そして作戦実行の夜になり

組織の入口から100m離れたところに立ち一本の赤い刀を構えている良

500m離れたビルで暗専用スナイパーを構えている雅之とパソコンでハッキングの準備をしている直人

全ては整つた!

良 いくぞ!

インカム越しで話す良

良・直人・雅之 ミッションスタート!-

俺たち、なんでも屋開店初めての仕事が始まった!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5009ba/>

---

三人のHawk

2012年1月14日17時51分発行